

富山市山岳域自然調査報告（2016）

著者	藤田 将人，吉岡 翼，太田 道人
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	41
ページ	59-63
発行年	2017-06-20
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=1066

富山市山岳域自然調査報告 (2016) *

藤田 将人, 吉岡 翼, 太田 道人
富山市科学博物館
939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

Research report of nature in mountain region in Toyama City (2016)

Masato Fujita, Tasuku Yoshioka and Michihito Ohta,
Toyama Science Museum
1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama, 939-8084 Japan

The geology, topology, fauna, and flora of the alpine and subalpine zone between Mitsumatarenge-dake and Eboshi-dake in Toyama city were researched. Volcanic landforms such as the volcanic lake of Washiba-ike, the lava plateau of Kumonotaira, and andesite with platy joint at Warimo-dake were recognized. Cirques in the east slope of Suisho-dake (Kuro-dake) and a horseshoe-shaped moraine of Noguchigoro-dake were recognized as glacial landforms. Periglacial landforms such as sorted steps and block field of granite, which were formed by freezing and melting of ground water under cold climate, were found on the slopes along the mountain ridges. Birds such as spotted nutcracker and alpine accentor were observed on the ridge of Yumiori-dake and Noguchigoro-dake. And more than 1100 plant distribution information were extracted from the Exif photo data.

Key words : geology, cirque, moraine, flora, bird, alpine and subalpine zone, Toyama City
キーワード : 地質, 圏谷, モレーン, 植物分布, 鳥, 高山・亜高山帯, 富山市

1. はじめに

富山市は標高2500 mを越える高山を多数有する自然豊かな行政区であるが, 地形, 地質, 植生等の自然の特徴は十分に把握されているとは言えない. 富山市科学博物館では, 常願寺川源流域及び黒部川源流域の特徴的な地形や地質, 生物分布等に関する知見を得ることを目的とし, 2013年から10年計画で調査を開始した. 4年目である2016年は, 岐阜県および長野県との県境部の黒部川源流域を調査地域とし, 予備的に状況確認を行ったので, その結果について報告する. 今後, 調査地域を拡大し, より詳細な調査を行う予定である.

なお, 調査に際し, 林野庁中部森林管理局富山森林管理署, 飛騨森林管理署, 中信森林管理署の協力を得た.

2. 調査日程とルート

調査は2016年8月30日(火)~9月2日(金)に行った. 新穂高から鏡平, 双六小屋, 鷲羽岳, 水晶岳, 野口五郎岳, 烏帽子岳を経由して高瀬ダムまでの稜線沿いの登山道とその周辺を調査した(図1). 現地調査は著者のうち, 藤

田と吉岡で行った.

- ・8月30日(火) 雨
新穂高 - 鏡平 - 双六小屋 (双六小屋泊)
- ・8月31日(水) 晴れ
双六小屋 - 巻道 - 三俣山荘 - 鷲羽岳 - 水晶岳 (水晶小屋泊)
- ・9月1日(木) 晴れ
水晶小屋 - 真砂岳 - 野口五郎岳 - 三ッ岳 - 烏帽子岳 (烏帽子小屋泊)
- ・9月2日(金) 晴れ
烏帽子小屋 - ブナ立尾根 - 高瀬ダム

3. 調査方法

調査地域の大部分は国立公園特別保護地区内であるため, 資料のサンプリングは行わず, 目視による確認及び写真撮影による記録を行った. 特に動植物の同定は主として踏査時の記録写真によるものである. 展望の良好な場所では, プラネタリウムで投影するために魚眼レンズを使用して撮影を行った (313枚撮影).

* 富山市科学博物館研究業績第513号

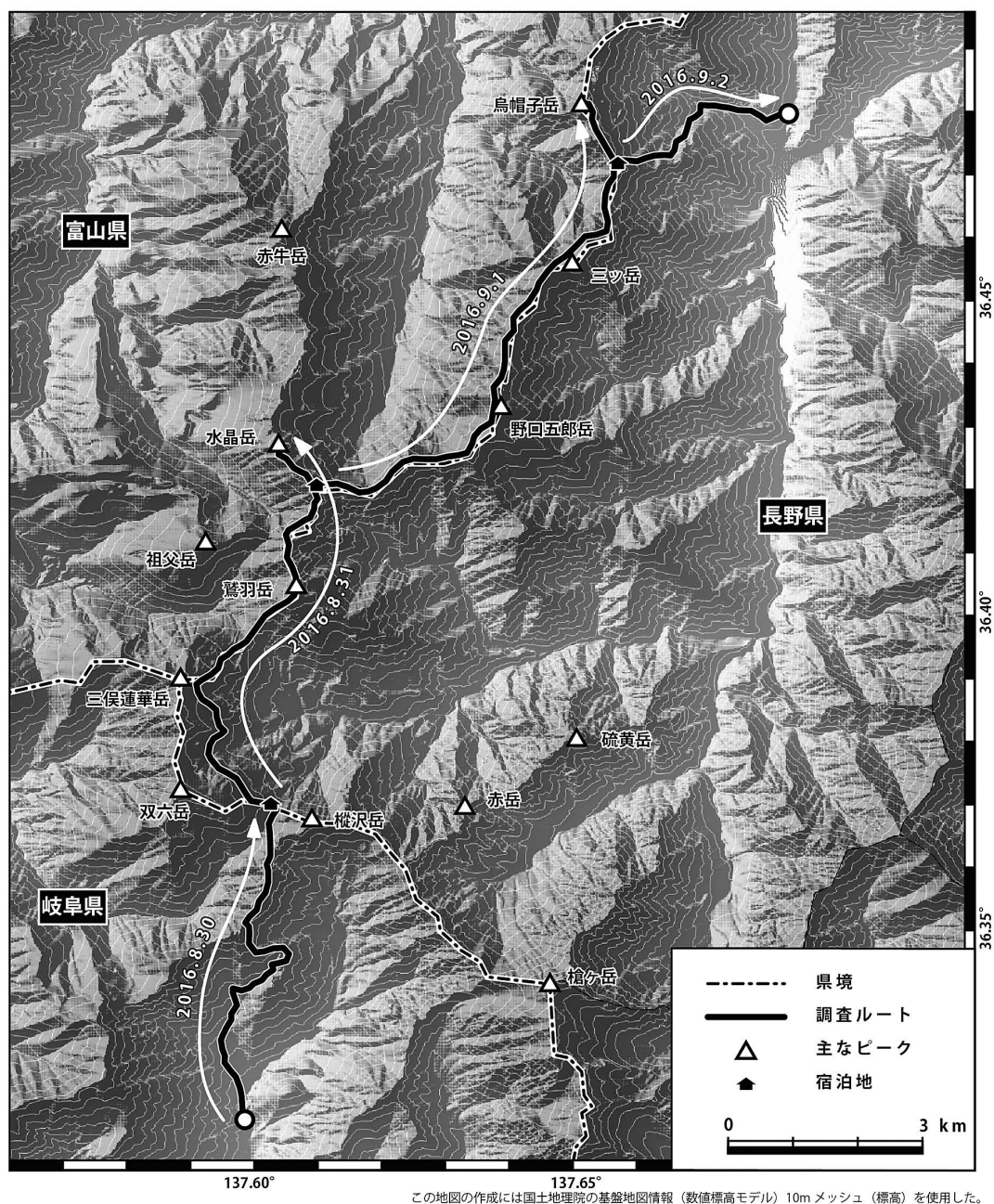


図1 調査ルート。



図2 二重山稜と窪地（ワリモ岳－水晶岳間）。



図3 二重山稜と窪地に点在する池（烏帽子岳周辺）。

4. 地形・地質

本調査地内は、主にジュラ紀の花崗岩類、白亜紀－古第三紀の花崗岩類が分布し、火山岩類、ジュラ紀－白亜紀の堆積岩が小規模に分布する（原山ほか，1991）。本調査地内を特徴づける代表的な地形・地質について述べる。

4.1 山地地形

ワリモ岳から水晶岳に延びる稜線と烏帽子岳周辺の稜線で二重山稜を確認した。二つの稜線の間にある窪地には池が点在していた（図2，図3）。

4.2 火山地形

鷲羽岳の南東斜面にある鷲羽池を確認した（図4）。鷲羽池は火口跡（直径約250－300 m）であると考えられている（原山ほか，1991）。ワリモ岳山頂付近にあるワリモ岳安山岩は板状節理が発達していた（図5）。



図4 鷲羽池（鷲羽岳山頂より）。



図5 板状節理が発達する安山岩（ワリモ岳山頂付近）。

4.3 氷河地形

本調査地内には、双六岳東斜面、三俣蓮華岳東斜面および北斜面、水晶岳の東斜面、鷲羽岳から烏帽子岳の東西斜面などに、カールなどの多くの氷河地形が存在する（深井，1964；関根，1975；原山ほか，1991）。今回の調査

では、双六岳から三俣蓮華岳の東斜面、鷲羽岳およびワリモ岳の東斜面、水晶岳の東斜面でカールを確認した（図6）。野口五郎岳の西斜面では、カールおよび馬蹄形のモレーンを確認した（図7）。これらは約3万～1万年前の最終氷期に形成されたと考えられている（原山ほか，1991）。



図6 水晶岳東斜面のカール群（野口五郎小屋より）。



図7 野口五郎岳の馬蹄形モレーン。

4.4 周氷河地形

弓折岳から双六小屋に延びる稜線の東斜面、水晶小屋から南に延びる稜線の西斜面および野口五郎岳南方の鞍部（標高約2850 m）に階状砂礫を確認した（図8）。これ



図8 野口五郎岳南方鞍部の階状砂礫。

らは土中に含まれる水分の凍結融解作用によって形成された構造土と考えられる。

4.5 花崗岩類

野口五郎岳山頂から野口五郎小屋を経て北方に延びる稜線上で、奥黒部花崗岩からなる最大径2 mに達する岩塊を確認した(図9)。これらの巨大な岩塊は氷河期の凍結破碎作用で形成されたものである可能性が高い。



図9 花崗岩の岩塊(野口五郎小屋北方)。

4.6 鉱物

水晶岳の山頂付近で、石英脈中に産する最大径1 cm以下の水晶および数mm以下のガーネットを確認した(図10)。これらは飛騨帯あるいは宇奈月帯、飛騨外縁帯の石灰質岩捕獲岩塊がスカルン化したものであると考えられている(原山ほか, 1991)。



図10 水晶岳の水晶。

5 植物

富山県の植物相に関する情報を継続的に蓄積しているところであるが、アクセスに時間のかかる後立山連峰南部や黒部川源流域における分布情報は、依然不足している。当該地域の先行調査には、本多(1952, 1991)、環境庁編(1979, 1988)、大田ほか(1983)、立山連峰の自

然を守る会編(2002)などがあり、水晶岳など一部の山岳の代表的な植物群落については植生調査記録が残されているものの、多くは植物分布情報としては精度不足である。

今回はこの状況を少しでも改善することを目的として、吉岡が現地で撮影した約2000枚のEXIF情報付きのJPEG写真から、緯度経度情報と撮影日時を抽出し、写っている植物を太田が同定することで、約1100件の植物分布情報を得た。ただし、植物の細部を確認できる写真は限られていたことから、同定できた種は、見分けやすいものに限られた。

主な記録として、タカネシオガマ(鷲羽岳, 水晶小屋)、クモグサ(水晶岳)、シコタンソウ(鷲羽岳〜ワリモ岳, 水晶岳〜水晶小屋)、コマクサ(野口五郎小屋〜三ツ岳〜烏帽子小屋, 烏帽子岳)、ミヤマタネツケバナ(水晶岳東側カール)、オヤマノエンドウ(三ツ岳〜烏帽子小屋)などが得られた。また、この地域の普通植物であるアオノツガザクラ、ヒゲノガリヤス、イワツメクサ、チングルマ、クモマスミレ、コバイケイソウ、ハイマツ、ダケカンバなどの分布情報についても、網羅的に館の植物データベースに格納した。

6 昆虫

双六小屋から烏帽子岳にいたる稜線沿いの開けた場所ではクモヒナバッタ(図11)をしばしば確認した。このほか、三俣山荘周辺ではヤマクロヤマアリ、オドリバエ類などを、水晶-真砂岳間でミヤマセダカモクメ幼虫やイチモンジセセリ、野口五郎岳山頂付近でエルタテハやハバチ類を確認した。



図11 クモヒナバッタ。

7 鳥類・哺乳類

富山市域からは外れるが、調査時に天候が悪く霧の出ていた調査初日(8/30)に弓折岳の北約500 mの稜線沿いでライチョウを確認した。野口五郎岳を過ぎた稜線沿いではハイマツの実を運ぶホシガラス(図12)や、岩上にイワヒバリを確認した。また、水晶岳〜真砂岳間でテ

ンのものと思われる哺乳類の糞，真砂岳でノウサギのものと思われる糞（図13）を確認することができた。



図12 ハイマツの実を運ぶホシガラス。



図13 ノウサギ？の糞。

文献

- 深井三郎，1964．黒部五郎岳と野口五郎岳の圏谷．北アルプスの自然，55-78．
- 原山 智・竹内 誠・中野 俊，1991．槍ヶ岳地域の地質．地域地質研究報告（5万分の1地質図幅），地質調査所，p．190．
- 本多啓七，1952．日本北アルプスに於ける高山帯の植物相とその考察．富山県立魚津高等学校あゆみ3．
- 本多啓七，1991．概説 奥黒部の植生と今後の課題．日本黒部学会紀要，黒部，1: 35-42．
- 環境庁編，1979．第2回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書 日本の重要な植物群落北陸版．環境庁．大蔵省印刷局．
- 環境庁編，1988．第3回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書（追加調査）日本の重要な植物群落Ⅱ北陸版．環境庁．大蔵省印刷局．
- 大田 弘・小路登一・長井眞隆，1983．富山県植物誌．広文堂．
- 関根 清，1975．日本アルプス三俣蓮華岳・黒部五郎岳附近の氷河地形について．岐阜大学教育学部研究報告（自然科学），5(4): 354-367．
- 立山連峰の自然を守る会編，2002．奥黒部読売新道の植物相．読売新聞北陸支社．

